

科学研究費補助金（学術創成研究費）公表用資料  
〔研究進捗評価用〕

平成19年度採択分

平成22年 4月27日現在

研究課題名（和文）目録学の構築と古典学の再生

—天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明—

研究課題名（英文）Establishing Library Catalogue Studies and Reviving Japanese Classical Studies—Restoration of the Royal and Noble Library Holdings and Investigation of Traditional Intellectual Systems

研究代表者

氏名（ふりがなをローマ字で記入）田島 公 (TAJIMA ISAO)

所属研究機関・部局・職 東京大学・史料編纂所・教授



推薦の観点：創造的・革新的・学際的学問領域を創成する研究

研究の概要：天皇家・公家文庫収蔵資料のデジタル画像を蔵書群毎に蒐集し、新しい学問領域である日本独自の目録学を構築し、「知のネットワーク」で結ばれた公家社会の文庫群（＝データベース）の復原や伝統的知識体系を解明することにより、日本古典学の研究基盤再生を目指す。

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本目録学・日本古典学・禁裏文庫・公家文庫・伝統的知識体系

### 1. 研究開始当初の背景

洋の東西を問わず、伝統的な知識体系の基礎をなす様々な古典の精細な研究（古典学）は全ての人文学の基礎である。しかし世界的な古典学研究復興の中で、日本の古典学は、新出の史料が少ない上に、活字化された既存テキストの信頼性が揺らぎ始めており、閉塞感が否めない。日本の古代・中世以来の伝統的知識体系は、天皇家を中心とした公家社会の文庫やそれに関連する寺社文庫に収蔵された蔵書群と書写を中心とした弛まぬ蒐集活動、更にはそれらが分類された有機的なデータベース（＝蔵書目録）によって伝えられてきたことに大きな特徴がある。中国では古典研究の為の基本ツールとして、経・史・子・集の四部分類に基づく目録学という文化史的・学術的研究分野が確立しているが、日本の古典研究にはかかる学問領域が確立していない。それを解決するのが日本独自の目録学の構築であり、更に天皇家・公家文庫収蔵の蔵書群ごとの公開と利用の促進によって、日本古典学再生への道筋が明らかになる。

### 2. 研究の目的

日本古典学再生のための新学問領域としての日本独自の目録学を構築し、古典学の研究基盤を整え、天皇家（皇室）ゆかりの文庫や主要公家の文庫のデジタル画像を蔵書群ごとに集積しながら、蔵書目録等を利用して、文庫の旧蔵形態を共時的に復原すると共に、蔵書群の変遷や古代・中世以来の公家社会が伝え育ててきた伝統的な知識体系の構造・具休相を通時的に解明することを目的とする。

### 3. 研究の方法

①東山御文庫・伏見宮家及び近衛家・九条家・柳原家等主要公家文庫収蔵史料や正倉院所蔵「東南院文書」等のデジタル画像を作成し、東京大学史料編纂所の大型画像サーバに集積する。②東山御文庫本と伏見宮家本の1画像毎の「デジタル画像内容目録」を作成する。①と②によりデジタル画像目録システムを構築し、古典学の研究基盤を整える。③『日本古代人名辞典』の増補改訂等、日本古典研究進展のための研究補助ツールを充実させる研究を行う。④禁裏・公家文庫の蔵書目録、文庫史、収蔵典籍・文書の個別研究を進展させる。⑤得られた研究成果を研究者に伝えるため目録・報告書・研究書を刊行すると共に、古典学の楽しさを一般市民に普及・還元するために、市民向け学術講演会・講座を行う。

### 4. これまでの成果

①東山御文庫本・伏見宮家本の1画像毎のデジタル画像内容目録約15万コマを作成した。②宮内庁書陵部所蔵柳原家本・九条家本・桂宮家日記、陽明文庫所蔵近衛家本・西尾市岩瀬文庫所蔵柳原家本、山口県立図書館所蔵明倫館旧蔵今井似閑本等をスキヤニングしてデジタル画像約70万コマを作成した。大量のデジタル画像を搭載するため、大型画像サーバを導入し、史料編纂所情報処理システム（SHIPS）上にドメインを構築してデータ搭載の環境を整え、上記デジタル画像を大型画像サーバにアップロードし格納した。③正倉院所蔵「東南院文書」全7櫃中、第1櫃～第6櫃までの表（おもて）部分を中心に約

#### 〔4. これまでの成果 (続き)〕

1500 コマの高精細デジタル撮影を完了した。  
④デジタル画像の内容目録作成支援及び研究閲覧用のため、km ビューア(国際マイクロ社製)をカスタマイズして「古典籍デジタル画像閲覧ソフト」(TKM ビューア)を開発した。  
⑤京都大学文学部所蔵「大日本史編纂記録」全249冊の基礎研究を行い、デジタル画像内容データベース約1万5千件を作成した。  
⑥古典学研究支援ツールとしての『日本古代人名辞典』1~7(吉川弘文館)の増補・改訂に向け、同辞典を入力、デジタル・スキャンしてExcel データを作成すると共に、奈良文化財研究所の「木簡データベース」から「木簡人名データベース」を作成するための基本ソフトを開発し、古代人名記載の木簡の年代を特定するための基本資料を整備し、「木簡人名データベース」を構築中である。  
⑦東京国立博物館所蔵の菊亭家(今出川家)旧蔵の日記・歌書等の古典籍について、書誌的データ目録を作成した。更に同館所蔵国宝九条家本「延喜式」の基礎研究を進めた。  
⑧陽明文庫所蔵一般文書目録約9万6千件のデータを入力し、同文庫所蔵典籍目録の入力と「十五函文書」のデジタル撮影に着手した。  
⑨護国寺所蔵の重要文化財『諸寺縁起集』の高精細デジタル撮影を行った。  
⑩古代の古典籍や古文書を題材にした市民向け学術講演会・連続講座を、西尾市岩瀬文庫・社団法人金鶏会(長野高校同窓会)・飯田市歴史研究所等の協力を得て開催した。  
⑪上記研究成果を含んだ中間報告書『目録学の構築と古典学の再生—天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明—』[東京大学史料編纂所研究成果報告 2008-1]、1-412頁、2009年、を刊行した。

#### 5. 今後の計画

①東山御文庫本・伏見宮家本の1画像毎のデジタル画像内容目録を引き続き作成する。  
②宮内庁書陵部所蔵壬生家本・陽明文庫所蔵「十五函文書」(歴代関白の日記他)・正倉院所蔵「東南院文書」等のデジタル化を行い、蒐集した画像を大型画像サーバに集積する。  
③蒐集したデジタル画像の内、所蔵者・所蔵機関の許可を得られたものは東京大学史料編纂所閲覧室で公開出来るように準備する。  
④「木簡人名データベース」を完成公開する。  
⑤国宝九条家本「延喜式」の基礎研究を進め、その成果を影印本の解説として公表し、紙背文書の全ての積文を公開する。  
⑥陽明文庫所蔵典籍目録をデータベース化し、一般文書目録と併せて、陽明文庫所蔵史料の全容解明を進め、その成果の一部を新たに行う「陽明文庫講座」(仮称)等で公開する。  
⑦西尾市岩瀬文庫・金鶏会等において、市民向けの古典学の学術講演会を継続的に行う。

#### 6. これまでの発表論文等(受賞等も含む) (研究代表者は二重線、研究分担者は一重下線、連携研究者は点線)

##### 【著書・編著書・報告書】

- ①末柄豊解題・校訂『京都御所東山御文庫所蔵地下文書』[史料纂集 古文書編](八木書店)、1-273頁、2009年。
- ②田島公編『禁裏・公家文庫研究』3(思文閣出版)、1-488頁、2009年。
- ③遠藤基郎『中世王権と王朝儀礼』(東京大学出版会)、1-448頁、2008年。

##### 【論文】

- ①遠藤基郎「鎌倉遺文を対象とする Virtual Laboratory 構築プロジェクト」、『歴史知識学ことはじめ』(勉誠出版)、81-99頁、2009年。
- ②山口英男「牧の経営」『飯田市歴史研究所年報』7、30-37頁、2009年。
- ③田島公「古代科野の宮号舎人氏族」『飯田市歴史研究所年報』7、38-60頁、2009年。
- ④田島公「祈年祭料の「白猪」と近江国」『平安京とその時代』(思文閣出版)、120-158頁、2009年。
- ⑤志村佳名子(RA)「平安時代日給制度の基礎的考察」『日本歴史』739、1-18頁、2009年。
- ⑥田島公「古代史料として分析した「長谷寺観音造立縁起」」『古事談を読み解く』(笠間書院)、408-440頁、2008年。
- ⑦田島公「尊経閣文庫所蔵『三宝感応要略録』解題」『三宝感応要略録』[尊経閣善本影印集成43](八木書店)、1-40頁、2008年。
- ⑧田島公「西濃地域にみる王領・禁野とヤマト王権」『季刊考古学・別冊』16、144-152頁、2008年。
- ⑨加藤友康「古代文書にみえる情報伝達」、『古代東アジアの情報伝達』(汲古書院)、235-265頁、2008年。
- ⑩尾上陽介「東京理科大学近代科学資料館所蔵『具注暦 仮名暦』について」『東京大学史料編纂所研究紀要』18、106-118頁、2008年。
- ⑪末柄豊「後土御門天皇の絵巻披見をめぐる」『東京大学史料編纂所附属画像解析センター通信』41、4-9頁、2008年。
- ⑫山口和夫「近世の目録に記された屏風について」『東京大学史料編纂所附属画像解析センター通信』41、10-11頁、2008年。
- ⑬田島公「尊経閣文庫所蔵『三宝絵』の書誌」『三宝絵』[尊経閣善本影印集成41-1](八木書店)、3-23頁、2007年。
- ⑭遠藤基郎「鎌倉中期の東大寺」『論集 鎌倉期の東大寺復興・重源とその周辺』[シンポジウム論集5]、90-102頁、2007年。

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kug-e-index.html>